

# 東日本大震災における 仙台市博物館市史編さん室の資料レスキュー活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、貴重な歴史資料に大きな被害をもたらしました。仙台市博物館では市史編さん室を中心に、他の組織とも連携しながら、資料レスキュー活動(救出や応急処置など)を行っています。9月末までに仙台市内外で27件の資料レスキューや資料調査を実施し、活動は現在も継続中です。

## ◆東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)への協力

文化庁が関連の学会や学術団体などに呼びかけて設立した東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会は、仙台市博物館内に宮城県の実地本部を設置しました。宮城県内の文化財レスキュー事業に対して、仙台市博物館は後方支援や現場への人員派遣など様々な形で協力しています。



名取市の熊野那智神社における懸仏を救出するための確認・梱包作業



仙台市内の旧家におけるレスキュー活動

## ◆NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク(宮城資料ネット)との連携

大震災後すぐに仙台市博物館は、宮城県内の歴史研究者や文化財行政に関わる自治体職員などが参加している宮城資料ネットと、資料レスキュー活動での協力を確認しました。以後、緊密な連携をとりながら仙台市内での資料レスキューや資料調査を実施しています。

## ◆仙台市博物館主体の活動

### ①資料保管呼びかけ文書の送付

仙台市博物館では、様々な方法を通して、歴史資料の被災情報を収集しています。これまで市史編さん事業で調査を行った宮城県・福島県・岩手県在住の資料所蔵者371軒に対しては、資料の保管を呼びかける文書を送付しました。その結果、資料の廃棄を予定していた所蔵者などから、資料調査の依頼が寄せられています。

### ②市内巡回調査での資料保管の呼びかけ

大震災以前に市史編さん事業で調査を行っていなかった仙台市内の旧家などに対しては、個別に訪問し、資料の被災状況を調査しています。現地では、文書や古写真を中心とした資料の有無や保管状況、家の由緒などについて聞き取り調査を実施し、右のチラシを渡して今後の資料保管を呼びかけました。その際は、ふすまの裏張り文書や近現代資料も重要であることを強調しています。反応はおおむね好意的で、9月末までに37日間で274軒の個人宅や寺社を訪問しました。



被災した蔵に入って資料を確認する博物館職員と宮城資料ネット

資料所蔵が確認された場合、水損資料については借用した上で応急処置を実施し、それ以外の資料については適宜詳細な調査を実施しています。

### ③学校資料のレスキュー

仙台市博物館では個人情報だけではなく、公的施設が所蔵する資料についてもレスキュー活動を行っています。例えば、津波被害を受けた小学校3校からは、学



津波被害を受けた学校資料の状態を確認する職員。資料は流された金庫の中に入っていた

校日誌や卒業生名簿などの資料を預かり、乾燥やドライクリーニングなどの応急処置を実施しています。保存処理を専門とする職員や水損資料を取り扱ったことがある職員はいませんでしたが、専門家の指示などを仰ぎつつ、試行錯誤しながら実施しています。

※2012年1～3月、国立公文書館による被災公文書修復支援事業の対象となりました。



平成23年5月19日付「河北新報」夕刊で紹介された巡回調査の記事

### ④震災資料の収集

大震災後、仙台市内の一部の避難所に対して震災資料の保存を呼びかけ、市民センターに掲示されていたチラシ類を残すことができました。

### ⑤震災パネル展

普及活動としては、4月以降、仙台平野の地震・津波の歴史や資料レスキュー活動を紹介したパネル展を開催しています。9月には市民向けのセミナー「特別企画 地域の歴史資料を救え」の実施に合わせて、仙台市博物館において宮城資料ネットと共同でパネル展を開催し、9日間で700人以上が観覧しました。現在、このパネルは市内の学校や市民センターで巡回展示をしています。



仙台市内の避難所の掲示物

詳細については、仙台市博物館市史編さん室の機関誌『市史せんだい』第21号(2011年11月刊行)に掲載の「緊急特集 東日本大震災における資料レスキュー活動」を御覧ください。(問い合わせ:022-225-0814)

第37回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会全国(群馬)大会 / 高崎市立中央図書館 / 2011年10月27-28日 ※一部改訂